

に

にしちよう 西町

市の西部に位置し、西側で川口市に接する。1931(昭和6)年5月1日、旧草加町の町名改正に際して、それまでの大字東立野の大部分と、大字南草加、大字原島、大字庄左衛門新田の各一部を併せて一つの町とした。町の西端に位置していたことから西町と付けられた。

立野は、牧場にちなんだ地名と解されている。江戸期から明治初年までは立野村。1879(明治12)年から北足立郡東立野村、1889(明治22)年4月からは草加町大字東立野と称していた。町内にある1659(万治2)年の庚申塔が残る真蔵院は、武田氏家臣の吉沢氏が武田氏滅亡後に隠棲した一族の菩提寺といわれている。また、町内には以前、豊作を祈願する「虫追い」の風習が残されていた。

〈平成元年2月5日号〉
■草加町

にしちようりょくどうすいり 西町緑道水路

市西部の西町にある、自然樹林地の保存と一体となって整備された水路。住宅街の中にあつて、わずかに残された樹林を保存しつつ水路を整備し、周辺環境にマッチした空間を整備した。木陰や水辺を楽しむ、生活の中に息づくスポットとして地域の人々に親しまれている。1989(平成元)年度に建設省(現・国土交通省)の「手づくり郷土賞」の「生活の中に生きる水辺30選」部門を受賞。

〈平成元年7月20日号〉
■手づくり郷土賞

にっこうかいどう 日光街道(日光道中)

市を南北に貫く道で、江戸時代の“五街道”(東海道・中山道・奥州道中・甲州道中・日光道中)の一つ。江戸日本橋から鉢石(栃木県日光市)までの道をいう。大部分が現在の県道足立越谷線、一般国道4号と重なる。江戸から宇都宮までは奥州街道と同じ道であったが、1617(元和3)年に徳川家康の霊廟日光東照宮が造営されて、江戸から日光までの通行が頻繁になるにつれ、奥州街道と重

なる部分は日光街道(日光道中)と呼ばれるようになった。江戸・千住宿から今の埼玉県に入ると、草加、越ヶ谷、粕壁(春日部)、杉戸、幸手、栗橋の六つの宿が置かれていた。房川関所(栗橋関所)を通過して利根川を舟で渡ると、下総の中田宿に入る。その後、古河、野木、間々田、小山、新田、小金井、石橋、雀宮を経て宇都宮へ。宇都宮で奥州街道と分岐。そこから、下・中・上徳次郎、大沢、今市から鉢石に至る計23宿があった。埼玉県内の日光街道は、古利根川の流れをさかのぼる道筋をとっている。1716(正徳6)年4月、幕府により五街道の呼称に統一が図られ、奥州街道と重なる宇都宮までを含め鉢石までが正式に「日光道中」となった。

■日光街道の歴史 1596(慶長元)年に“東奥の駅路”奥州街道が定められた時に、この道筋になった。1602(慶長7)年、宿駅制度が設けられ、千住、越ヶ谷などの宿が置かれた。当時まだ草加宿はなく、千住から越ヶ谷間は八条、大相模などを通り、草加を東に迂回する形のルートであった。そこで、宿篠葉村の大川図書らが、草加を通る新道を開削

し、草加宿設置に動いたとされる。草加宿成立後の各宿の距離は、千住から草加間が2里17町、草加から越ヶ谷間が1里33町、越ヶ谷から粕壁間が2里30町、粕壁から杉戸間が1里半、杉戸から幸手間が1里半、幸手から栗橋間が2里22町であった。

1616(元和2)年4月17日に徳川家康が没し、久能山に葬られた。その後、日光山への改葬が決まり、霊廟造営が始まると、江戸と日光間は職人その他の往来が頻繁となった。

この街道は、奥羽の諸大名も参勤交代に利用した。その数は、時代によって変わるが、仙台、会津、盛岡、米沢の各藩主など41家にのぼる。また、松尾芭蕉が通った道でもある。当時の街道の様子は、文化3(1806)年成立の『日光道中分間延絵図』や歌川広重の『日光道中三』、渡辺華山の『草加雨景』などに描かれている。

■日光街道の現在 市内におけるかつての日光街道は、陸羽街道、6号国道、国道4号と名称を変え、現在は県道足立越谷線となっている。なお、吉町五丁目まで県道足立越谷線と分かれ、市役所本庁舎や草加小学校の前を通り、神明一丁目で再び足立越谷線と接する道が、本陣の置かれていた本来の日光道中であり、現在は旧道と称されている。

〈通史編上P444〉
■一般国道4号 大川図書 県道足立越谷線 草加宿 松尾芭蕉 渡辺華山

にしちちよう 新里町

市の南西部に位置し、西と南は毛長川を挟んで東京都足立区と接する。新里の地名の由来を「地誌材料稿」(明治10年代の地誌調べ)では「俚伝云、本村ハ古時入海ノ地ニシテ泥沼多ク村落ナシ、常ニ水溢ル患アリシカ何年頃ニカ此ノ地ヲ開墾シテノ村落ヲ為ス。故ニ新タニ里ヲ開クラ以テ新里村ト名ツケシト云

」と記されている。

地区内からは、1348(貞和4)年と1353(文和2)年の板碑が出土し、当時、すでにある程度の規模の村落がつくられていたと推測される。町内には髪長い娘が毛長沼へ身を投じ、いとおしんだ村人が娘の黒髪を祭ったといわれる毛長神社や市の指定文化財のある泉蔵院がある。

〈平成元年2月20日号〉
■板碑 毛長川 毛長神社 泉蔵院

にっぽん 日本ガーディアン・ エンジェルス草加支部

防犯と青少年の非行防止、市民の住みよいまちづくりの推進を活動目的とするNPO法人の支部。市が開催した防犯講座「草加市安全安心アカデミー」の修了者を中心とする13人の有志により、2008(平成20)年4月20日に国内24番目、県内4番目の支部として設立された。なお、支部設立に伴い協働による安全なまちづくりを進めるため、市と連携協定書を締結した。

草加駅周辺の地域安全パトロール、市内イベント(祭り等)でのパトロール、子どもへの安全教育等の活動を行っている。

〈平成19年10月20日号〉
■安全安心アカデミー

にほん みち せん 日本の道100選

日本全国の特徴のある道路を選定、表彰したもので、1986(昭和61)年に制定された「道の日(8月10日)」の記念事業の一つとして実施。建設省(現・国土交通省)と「道の日」



実行委員会が選定。市では、日光街道(草加松原)が選ばれている。県内では、この日光街道と大滝村(秩父市)の秩父往還道の2件。全国から、栃木県の日光街道杉並木、京都府哲学の道、熊本県の天草パールラインなど104件が選ばれている。

1987(昭和62)年11月15日、草加松原の矢立橋近くに100選の顕彰碑が建てられた。碑は黒御影石製で、埼玉県をかたどっている。高さ175m、横3m、厚さ30cm。

〈昭和62年8月20日号・昭和62年11月20日号〉
■草加松原 日光街道 矢立橋

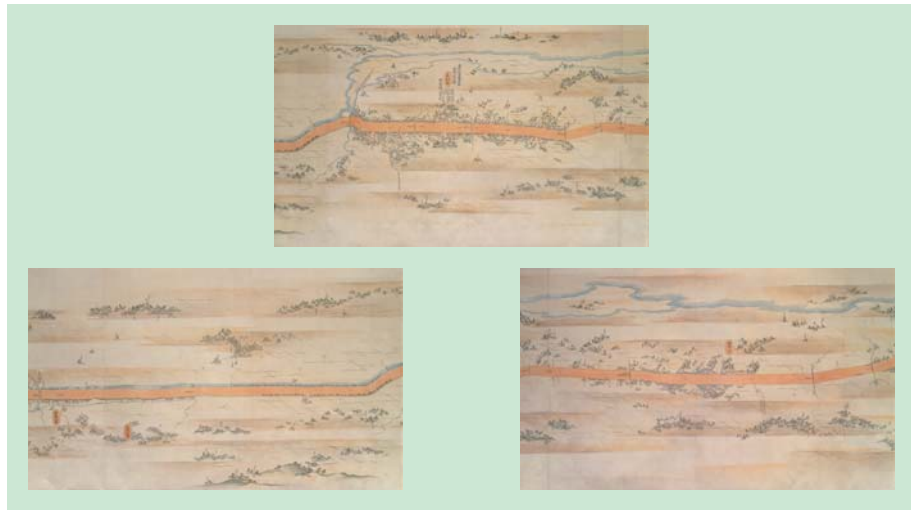
にほん 日本ハープコンクール

ハープ音楽の振興と若いハーピストの育成のため、国際ハープフェスティバルと同時期に開催されるアジアで唯一のハープコンクール。1989(平成元)年から草加市文化会館や中央公民館を会場に開催。主催は日本ハープ協会。

コンクールは、プロフェッショナル部門(35歳以下)、アドバンス部門(22歳以下)、ジュニア部門(13歳以下)の3部門に分かれ、日本及び海外の著名なハーピスト等が審査員を務める。近年は国内はもとより韓国・中国等諸外国からの参加者も多く、一流ハーピストへの登竜門として国際的イベントに成長している。なお、2008(平成20)年からアドバンス部門は12歳を越え20歳以下、ジュニア部門は12歳以下となった。

プロフェッショナル部門を開催した翌年にアドバンス部門とジュニア部門を開催というように、毎年交互にコンクールが行われる。

〈平成元年12月5日号〉
■国際ハープフェスティバル



日光道中分間延絵図(所蔵先・東京国立博物館)
複製禁止 Image: TNM Image Archives Source: <http://TnmArchives.jp/>